

2004年度(平成16年度)第1回理事会記録

日時：2004年3月22日(月)14:00~17:05

場所：八重洲倶楽部「第2会議室」

出席者：廣川信隆(理事長)、河田光博、高田邦昭、山科正平(以上常務理事)、井出吉信、大野伸一、木山博資、近藤尚武、正村静子、菅沼龍夫、杉浦康夫、高野吉郎、竹内義喜、武田正子、福本哲夫、(以上理事)、内山安男(監事)、依藤宏(幹事)、小森雄一郎(学会事務センター)

欠席者：柴田洋三郎(常務理事)、仙波恵美子(理事)、上田秀一(監事)

陪席者：井出千束(第16回国際解剖学会議組織委員長)

(上記各項目五十音順)

・議事録署名人の選任

議事録署名人として井出吉信、高野吉郎両理事が選任された。

・前回会議記録の確認

2003年度(平成15年度)第4回理事会記録(案)

・報告事項

1. 庶務報告

「少量核燃料物質の使用に関する規制」に対する要望書の提出

文部科学省原子力安全課において検討されている核燃料物質規制の強化案が、ウランを使用する電子顕微鏡試料の作製に支障をきたすことが判明し、関係各学会と連携しつつ要望書を提出した経緯、現状、および今後の対応について報告がおこなわれた。

平成15年度各種委員会活動報告

各種委員会委員長より提出された報告書をもとに報告がおこなわれた。

平成17、18年度総会・全国学術集会開催校の公募について

標記につき、解剖学雑誌に案内を掲載することが報告された。

解剖学実習室の環境とプラスチックンについての問い合わせ(文部科学省)

文部科学省医学教育課よりシックハウス症候群との関係で解剖実習室の環境および解剖実習をプラスチックン標本で代替することについての問い合わせがあった。今回の問い合わせは返答期限が迫っていたため庶務理事が対応したが、この件に関しては解剖学会として人体解剖学実習の必要性を確認する事も含めて公式見解を用意しておいた方がよいと判断され、解剖体委員会に諮問して、答申をまとめてもらうことが決定された。

その他

1) 最近の新聞に海外における「プラスチックン標本作製用遺体をめぐる疑惑」、「医学教育用に献体された遺体の流用」などの記事が掲載されていることから、遺体の取扱に関しては十分注意されたい旨の要望がなされた。

2) (財)日本学会事務センターが、関連会社(株)学会ユーティリティセンターにおける横領事件を刑事告訴することになったこと、同社の事業自体はその後も堅調におこなわれていること等、学会事務センター側よりお詫びと報告がなされた。

3) 学術会議の改組：総務省から内閣府に復帰し、現議員の任期は2005年9月末までに短縮され、7部から3部に改組される予定のことなどが報告された。

2. 編集報告

平成15年度「解剖学雑誌」刊行状況報告

予定より総ページ数が増え、それに合わせて経費も増加している旨、報告がなされた。

「A S I」刊行状況報告

順調に刊行されている事、Impact Factorの申請を今年夏頃までにおこなうことが報告された。

後者については、今後2年間の引用が調査対象になるが、A S I自体での引用は対象外とされるので、なるべく他の国際誌においてA S Iの論文、総説を引用して欲しい旨、要望がなされた。

3. 企画・渉外報告

第16回国際解剖学会議準備状況報告

シンポジウムの会場、時間の割り振りの大枠が決定したこと、天皇皇后両陛下ご臨席の予定等、準備状況について報告がなされた。

平成15年度奨励賞選考結果報告

4名の申請者のうち2名を受賞者として決定した旨、報告がなされた。

生物科学学会連合報告

標記学会連合第9回、第10回連絡会議の出席報告がおこなわれた。

審議事項

1. 平成17年度科研費審査委員候補者選出

標記に関し、日本学術振興会、日本学術会議の方針の変更点についての説明がなされ、続いてそれに基づいた候補者の案が提示された。審議の結果、同案は承認された。

2. 平成15年度事業報告

文部科学省提出のための平成15年度事業報告書について審議がおこなわれた。奨励賞の申請課題の誤りが指摘され、その修正を条件に承認された。

3. 平成15年度会計報告

平成15年度決算について報告がおこなわれた。平成15年度は単年度で971,851円の赤字、昨年度からの繰越金を含めても42,626円の赤字であった。また、この決算に対する内山、上田両監事による監査結果、ならびに公認会計士による監査結果が報告された。以上の2件につき、審議がおこなわれ、承認された。

4. 平成16年度予算の一部改訂および財政改善のための方策

上記平成15年度会計報告を受け、平成16年度予算の改定案および財政再建のため、賛助会員の獲得をはかる、地方会経費分担の見直し等の方策が承認された。また今後の和文誌のあり方について検討していくこととなった。

5. 平成16年度奨励賞選考委員会委員編成

委員案が提示され、承認された。

6. 申請による学術評議員審査

選出規約についての説明の後、全出席理事による投票がおこなわれ、9名の申請者のうち8名について資格有りとして認定され、学術評議員会・総会に諮られることになった。

7. 永年会員推薦

候補者案が提示され、承認された。なお3月19日現在有資格者で推薦について意思表示のない

方については支部長から働きかけをして頂くこととし、本人が推薦に同意した場合はその後の手続きに関しては常務理事会に一任することが了承された。

8. 平成15年度解剖組織技術士功労賞選考

3名の申請者全員に対し審議の結果、承認とされた。

9. 「解剖学用語集」の出版

用語委員会提案の標記の件につき、出版の条件等の説明がおこなわれ、審議の結果、出版をおこなうことが承認された。

10. 学術委員会の中間答申「学術集会のありかた」

標記の学術委員会の中間答申およびそれに対する第110回総会・全国学術集會会頭 大谷修富山医科薬科大学教授の意見書が提示、審議された。この件については後日 E-mail による意見も受けることとし、それらを集約して学術委員会に戻し、最終答申をとりまとめもらうことが決定された。

11. IFAA等について

IFAAへの対応についての「海外関連団体に対する諮問委員会」答申とそれに基づくIFAA executive committee との交渉経過等につき、企画・渉外担当理事から概要説明があり、その後、井出千束国際解剖学会議組織委員長から第16回国際解剖学会議における会長職が二人であることの問題点につき説明がなされた。これらの点についての審議がおこなわれた結果、廣川現理事長に会長職の全権を委ねる事が承認された。

12. その他

近年の大学改革に伴い、解剖学教室が減らされる傾向があることから、各大学の実情調査が必要ではないかとの意見が出された。